

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年5月29日発行 No.37

『それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』
(マルコによる福音書16:15)

<タイからの留学生が KIU を訪問!! この小さな出会いが大きな世界平和へと繋がる…。>

チャペルでは先週の木曜日午後、KIU と提携を結んでいるタイの Eastan Asia University (EAU) から数名の留学生を迎え、サマースタディプログラムの入校式を行いました!! わずか1週間という短い期間ではありますが、このような機会が、互いの文化や歴史への理解を生み、ひいては国際平和に繋がっていくのだろうと思います。良き学びの時をお祈りしています!!



流暢な英語で語られる歓迎の言葉



飛行機の疲れを見せない意欲的な姿勢



「よく来てくれました!!」



短い期間ですが、チャペルにも遊びに来てね~ (^o^)/”

<学ぶチャンスは外国だけではない!! 「ヒロシマ平和旅考 2017」の募集がついにスタート!!>

今、世界中の国々の動きが大きく変化しようとしている事を様々なニュースを見ながら強く感じさせられます。しかしこのような時こそ、私たち一人ひとりがしっかりと世界平和を求めて、またそこに繋がる学びを積み重ねる事が求められます。キリスト教センターでは、今年も8月4日~6日まで2泊3日の行程で、「ヒロシマ平和旅考」を行います。世界で初めて核爆弾が使用された「ヒロシマ」を訪れ、歴史を学び、共に平和を考えるプログラム、関心のある方はぜひキリスト教センタースタッフまでお声かけ下さい!!



<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月22日(月) テーマ:「繋がる力」

野間 光顕(チャプレン)

先週土曜日、私はキリスト教教育同盟の関西地区協議会に出席した。23の学校から約80名もの出席者が集まり、礼拝や総会に続いて情報交換、交流等非常に有意義な時を過ごした。しかし様々な学校の話を書く中で、少子化や経済不況により生徒減に歯止めがかからず、断腸の思いで撤退を決めたという学校があった。帰りの電車の中、閉校を決断した理事長の言葉を思いつつ、キリスト教教育の現場で働ける恵みの大きさと、課せられた責任について自問自答させられた。今一度、神と隣人との繋がりを覚えつつ、建学の精神の具現化に全力を尽くしたい。

5月23日(火) テーマ:「学生スポーツの力」

武内 孝祐(リハビリテーション学部)

私はプロチーム、代表チームのトレーナーになりたいという気持ちから、理学療法士になった。しかし現在は、学生スポーツを中心にトレーナー活動をしたいと考えている。そのきっかけには、過去にヘッドトレーナーとして携わった筑波大学ラグビー部での活動がある。大学生アスリートは4年間という短い期間で日本一に挑戦する。その過程は、常に一本道ではなく、時には進路や将来に悩む事もあるが、その中で本気でスポーツをする学生アスリートに大きな魅力、プロチームにはない力や魅力を確かに感じた。スポーツをしている、していないに関わらず、学生には私たち教員にはない力があると思う。その力を十分に発揮し、大きく成長して欲しい。

5月24日(水) テーマ:「理学療法士の可能性 私の製品開発の話」

南場 芳文(リハビリ学部)

理学療法に関わるようになって20数年が過ぎたが、最近4原則(運動療法、ストレッチ、姿勢の安定、痛みの緩和)に加えて新しいプラス1「生活・住環境の整備」の観点から、様々なアイデアを生かした新しい製品開発にチャレンジしている。例えば、転倒防止に役立つ爪先が自動的に上がる靴下や、太くて握り易くまた長さを調節できる杖など、既存の会社や工場から断られても、現場のニーズをしっかりと見つけ、それを丁寧に汲み取る事によって、今までに無かった新しい製品を開発する事ができる。ヒントは常に自分の身の周りに必ず存在していると思う。

5月25日(木) テーマ:「十字架の言葉は神の力です」

内田 省司(日本国際ギデオン協会 神戸支部)

五月上旬に初めてKIUを訪れた時、六甲アイランドにこのような自由な雰囲気を持つキャンパスがあり、またその中に素晴らしいチャペルが据えられていて、そこに多くの学生が集って礼拝が奉げられている事実に驚きと感動を覚えた。そこには見えない神の力が確実に働いている。ギデオン協会も、約100年前アメリカの小さなホテルで2人の若者が出会い、世界に聖書を配ろうと意気投合した所から始まり、今や世界中で200もの国々で活動を展開するまでになっている。この土台に流れる神の力、「福音の力」を覚えつつ、共に歩みを進めて行きたい。

5月26日(金) テーマ:「かけがえのない賜物」

前田 次郎(理事長)

今日お配りした1枚の絵は、「聖クリストファー」という有名なものだ。(⇒)力持ちであった一人の男は、ライン河の畔で小さな子供に出会い、河を渡して欲しいと頼まれる。その子を背負って河を渡っていると、次第に重くなってくる。力の限りを尽くして何とか向こう岸に着くと、その子は「あなたは世界の重荷を背負ってくれた」という祝福の言葉と共に主キリストへと変貌した。今日でも交通や重荷を負う者の聖人として語り継がれている。学生の皆さんは、4年間を通して自分に与えられている「かけがえのない賜物」に気付けるような、そんな学生生活をぜひ送って欲しいと切に願う。

(文責:野間 光顕)

